



写真の伝える力を実感

もりやま さあや
森山 沙彩さん(金津高3年)

かわいがりながら、おしゃれな姿で、みんなに喜ばれてる「保護ペット」。でも、その裏には、悲しい想いが隠されています。そこで、この記事では、保護ペットの飼い主探しに使われる写真にも、できるだけ動物たちの明るい表情を撮るという気配りがされていることを初めて知りました。

新たな飼い主を探す保護ペット 幸せ願い撮影申し出

（左）柴犬の「さくら」（右）保護ペットの「さくら」

この記事は、ボランティア活動で、新たな飼い主を探す「保護ペット」の写真撮影をしている森さんに取材をしたもので、私はこれを読んで、保護ペットの飼い主探しに使われる写真にも、できるだけ動物たちの明るい表情を撮るという気配りがされていることを初めて知りました。

たくさんの文章で表すより、たった一枚の写真の方が相手に伝えたいことが伝わるときがあ

る、ということをよく耳にしますが、それくらい一枚の写真にはたくさんの情報が凝縮されているということだと思いました。

「ふうた」の写真のように、人間不信になった動物のいい表情を撮ることは、決して簡単なことではないと思います。しかし、このような活動を通して一匹でも多くの悲しい想いをしている動物たちが少なくなってほしいです。

また、このような写真一枚にも「この子を助けたい」「幸せになってほしい」という多くの人の強い思いがこめられていることを忘れてはいけないと思いました。

マ
イ
ト
ツ
ブ
ニ
コ
ー
ス